懸想屋里長

けそうやりちょう

くるまびき

車引

uwb3.com
by UWABAMI

お前は春になったらおっ母さんの裲襠(うちかけ)を着て

二代目の喜瀬川としてお披露目するんだ

もうお針なんてやめていいんだよ

だからさお清…

でもこれは九重(ここのえ)花魁に頼まれて

そんな事より手練手管を学んでおくれよ

女将さん俺は…

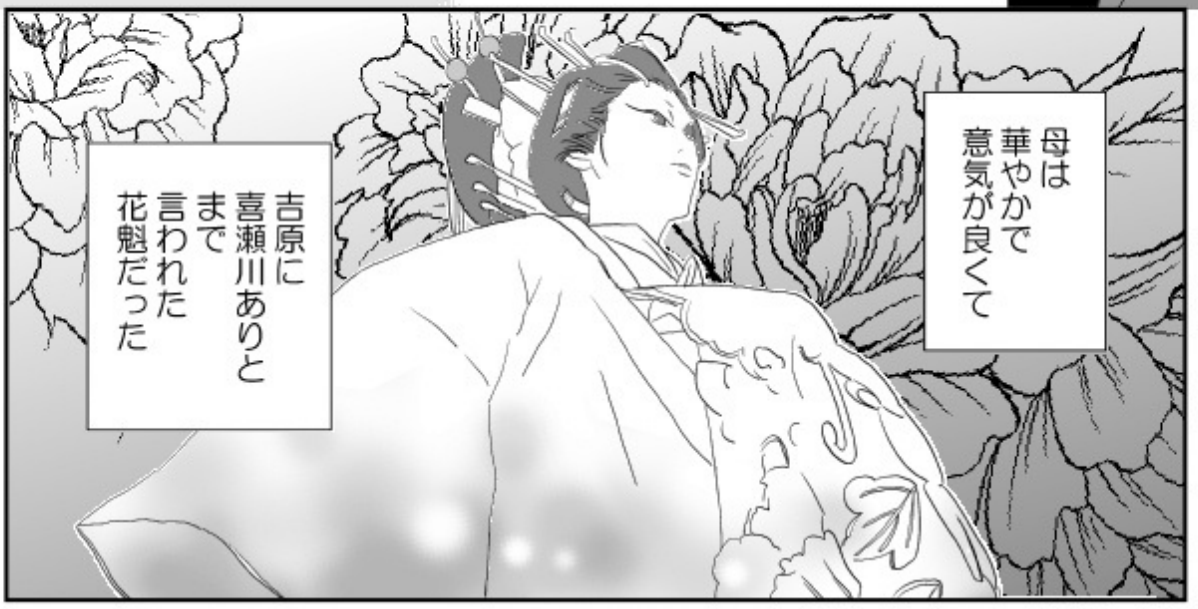
花魁にならないようにお針になったんじゃねぇのか？

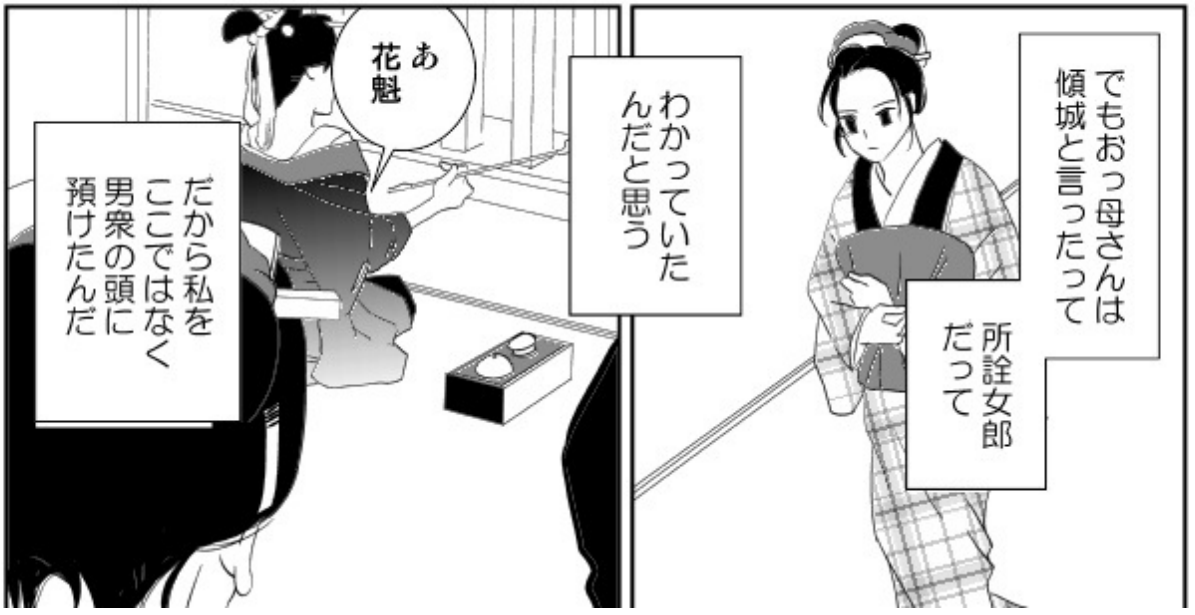
何を言ってるんだい お前ほどの器量で

どこに下働きで終わらせるバカがいるかね

お前は幸せな子だ

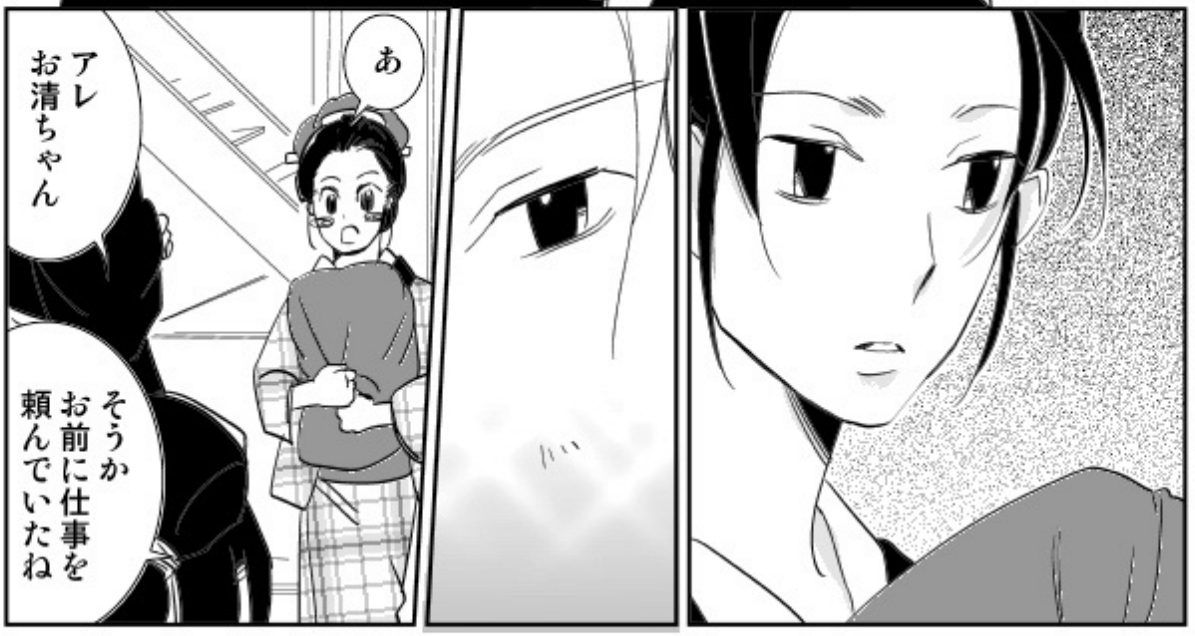
何の苦労もせずに傾城になれるんだからね





アノサ
里長さん
約束の手紙は
ちゃんと渡して
くれたんだろうね
ヘェ
時間も場所も
やり方も
きっちり書いてね
オイコラ
うかつに
喋るんじゃ
ねぇよ
大丈夫
花魁の思いは
伝わっていますよ
本当かよ…
あれは
懸想屋…
女郎の
恋文を
代筆している
とかいう

俺がそう書いたから
お前さんのかわりに
旦那はきっと来る



年季が明けて番頭になってもまだ全盛に劣らずでさ

売り物でもないのに通客が絶えなかったってね

その喜瀬川の名前を娘が継いでくれるんだから

こんな幸せなことはないでしょうね

そうかな

里の諸訳を憶える内に

お清さんもこの里長を贔屓にしておくんなさいよ

ザッ

ザッ

ザッ

俺は…
まだ夢の中にいるみたいだ
こんな狭い世界にいて
おっ母さんにも会えなかった下働きの俺が
傾城になるなんて…
キヨ

宗太

ただ話してただけだよ

懸想屋なんかと何してんだ

そうですよお俺の顔見ればそうやってつっかかって来てさ

テメェはうさんくせぇんだよ

贔屓にしてくれるお客さんがいますからねぇ

近頃やたらこの楼へ出入りしているだろう

書けねぇ女をたぶらかして

足抜けの算段をしてるって噂も聞くぜ

そりゃぁ…イマイチですねどうせなら

突き出し前のお清さんとできてた

なんて

きさま

そうだったらどうする？

その男を殺す

じゃあ宗太はなんだよ

俺は

吉原の男衆として

突き出し前の妓に手を出す大罪人は見過ごすわけにはいかねぇ

キヨはもう一人だけのものじゃねぇんだ

ぎゅっ

宗太は死ぬのが恐いんだ

もういい
キヨ

里長
俺は目星をつけてるんだぜ
九重にな

心ならずもモシ主さんへ
そこどいっくんな

とんだ愁嘆場だなぁ

何で俺に言うんです？

何をしても無駄だってことさ

どこにいたって見つけてやる

過去を隠そうとしたって引きはがしてこの場所にさらしてやる

テメェのことでもあるぜ

里長

懸想屋風情に何か嫌疑をかけて仕事をしてる気になってんのか

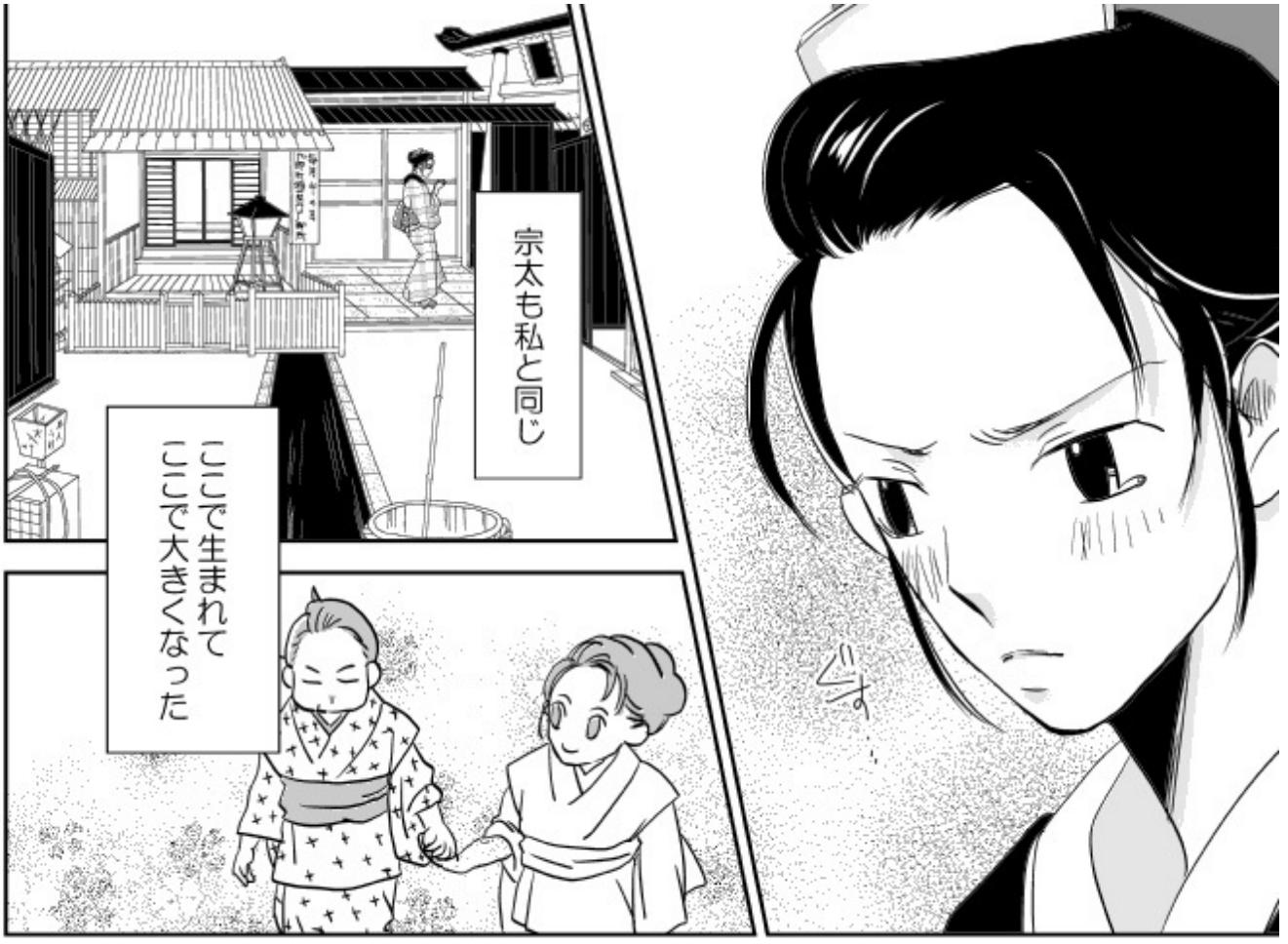
つまらねぇ執着のわりに

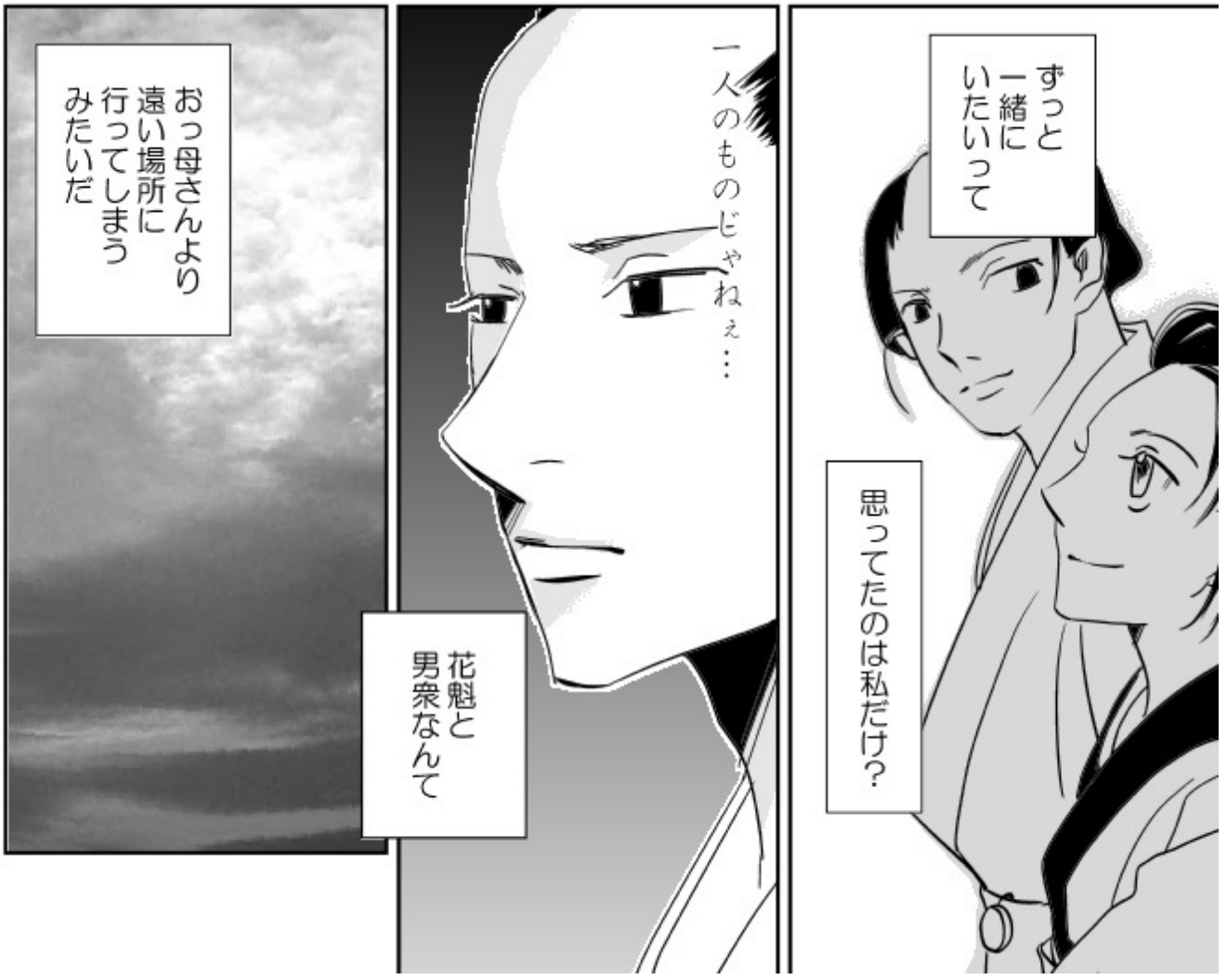
だらしねぇな

まったく人のことが言えた義理かね

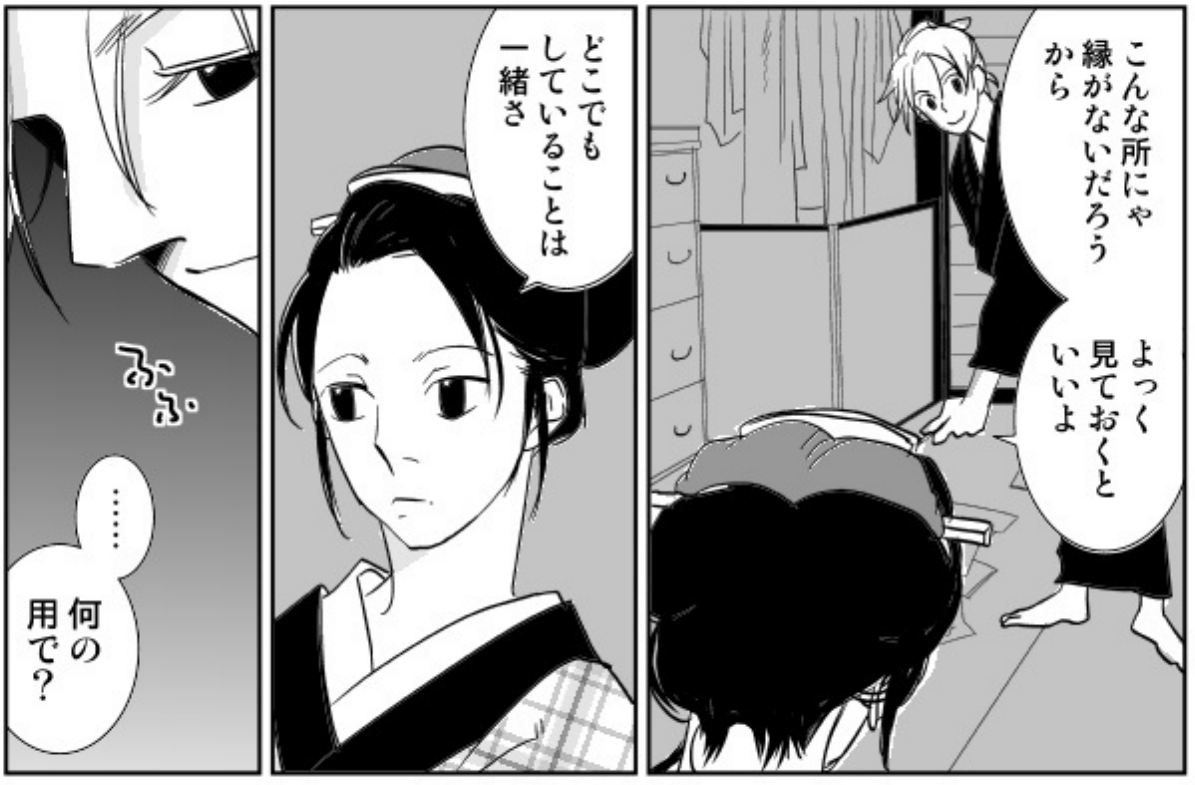
男衆が女郎と通じる方が

もっと大罪なんじゃねぇのか？


宗太も私と同じ
ここで生まれて
ここで大きくなった
ぐすっ…


ずっと
一緒に
いたいって
思ってたのは私だけ？
一人のものじゃねぇ…
花魁と
男衆なんて
おっ母さんより
遠い場所に
行ってしまう
みたいだ

ひのおろし
くいやいや
ゴルゴン……
羅生門河岸
よく
ここが
わかったね
お清さん
どさっ
幸坊に
聞いてね


こんな所にゃ縁がないだろうから
よっく見ておくといいよ

どこでもしていることは一緒さ

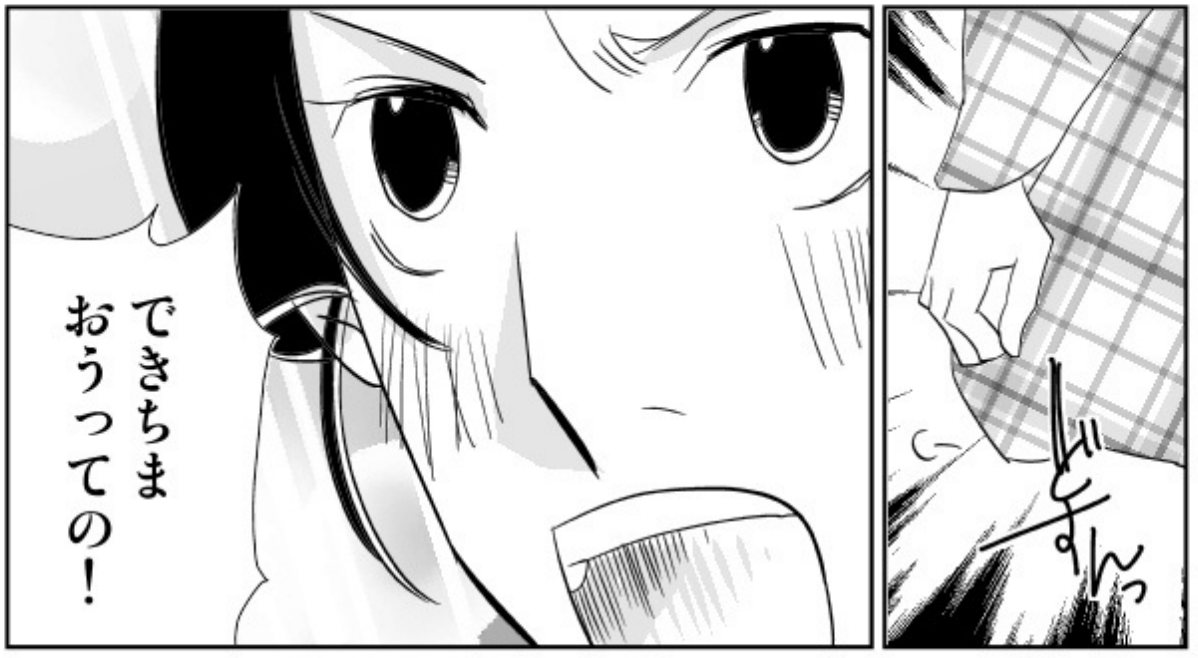
ふふ
……
何の用で？

うんアノサ

さっきの話…

本当にできちまおうか
ぶっ

――
何だって？


どすんっ
できちま
おうってのの！

ぐいっ

よしねぇな
むっ

んだよ…
テメェも
宗太と
同じなのかよ

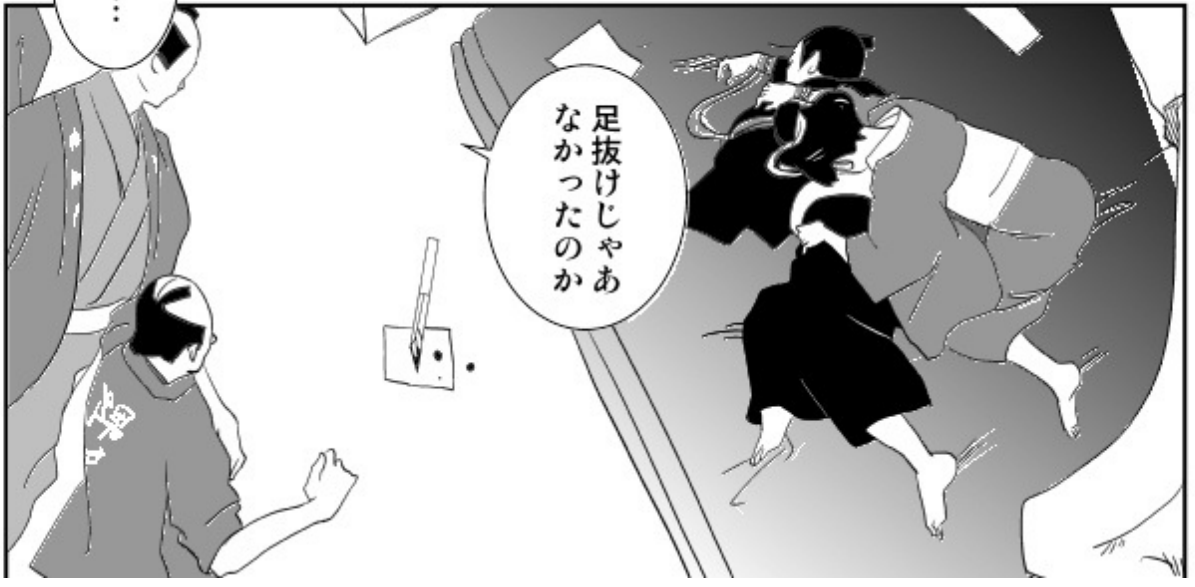
自分はもう――
全部あきらめて
ドタ
ドタ
ドタ
それで女郎になるんだ
九重はいるか！
ドタッ

やっぱり死にたくねぇもん

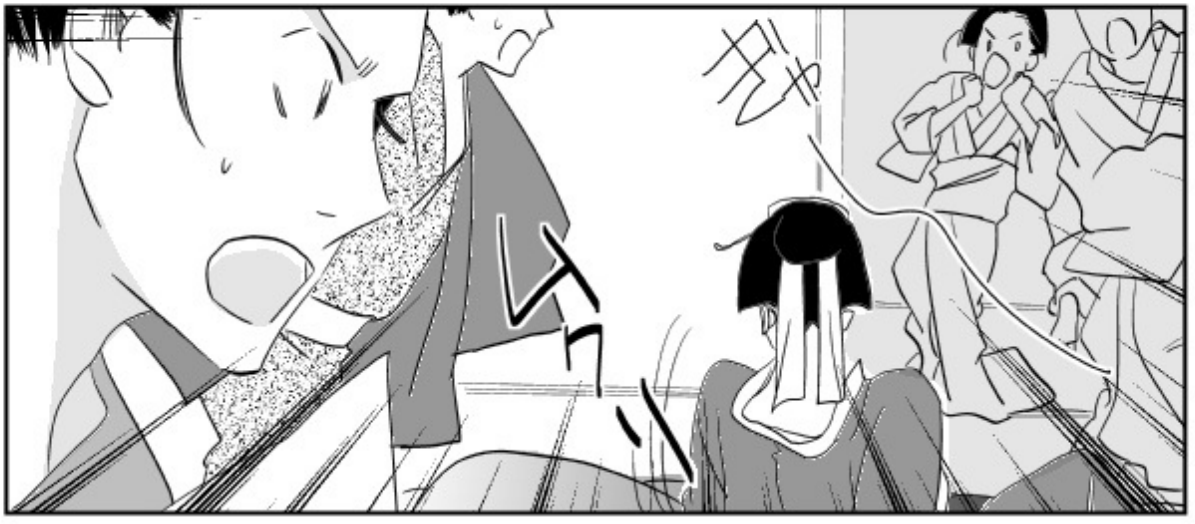
突き出し前の生娘が帯もとかいでそれなりになんてさ

もったいないけど

やっぱり夢にしときます



きゃー
九重
う…ん


ガシャ
ドカッ

おやおや
皆さんおそろいで
どうしたんだい
だってお前が足抜けするってこいつらが
何をバカな
わっちはまだ死にたくねぇよ

こんな…

ふざけた真似を…

これは懸想屋の手か

考えたのもやつか？

「赤い紐と血糊を少し」

「二人で死んで未来永劫一緒にいたい」

バカな亡八だな

遊びにムキになりやがって

あはは

はは

はは

じゃあどうすればいいんだよ
俺は宗太が好きなんだもん
こんな気持ちのままで女郎になんて…なれない
吉原の真ん中で生まれたお前さん達二人が
こんな野暮じゃ親方も心配するはずだ
お前さんを預かった親方にな
代筆を頼まれているんだ

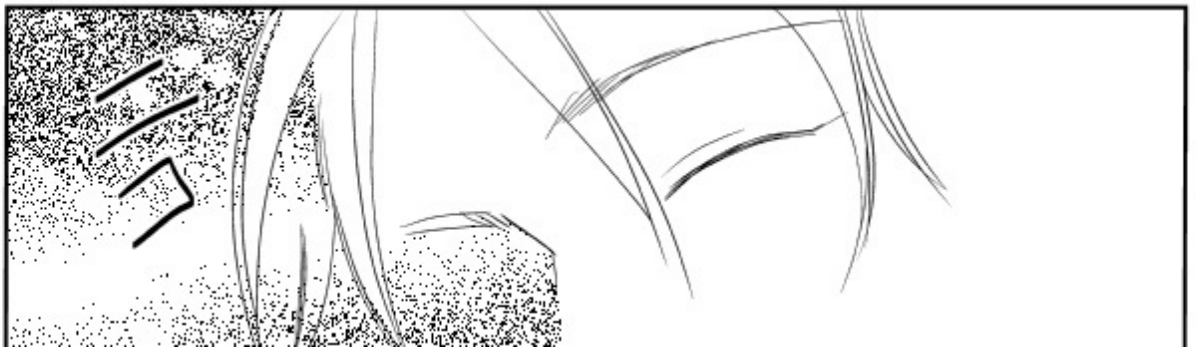
親方は宗太とお前さんとの仲に気づいてるよ
え
そりゃ小さい時分から見てきたからな
まるで父親みたいにさ
本当は二人を夫婦にしたいと思っていたようだけど
何しろお前さんは喜瀬川の娘だ
運命というやつには逆らえねぇ
つらい苦しい勤めなのに
ぎり
喜瀬川は何で身請もされず

ここに居続けたのか考えたことがあるかい？
家族
家族だよ
楼にいる者達も
お前さんも
親方も
みんなこの場所にいるからだ
――
俺のお父っつあんは…
あぁしまった
お清さんに直接言うと言っていたのに
里長は全部わかってたんだね…
わかっていて…

そうだ

この吉原で

真実を知っていいのは俺だけなんだよ



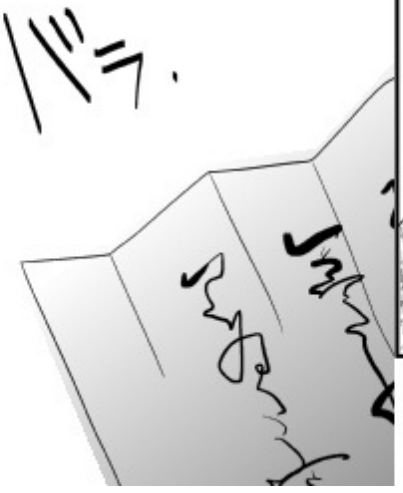
なんてな
はい書けた

お清さんから宗太へ
ちゃんと渡してくださいよ
俺の代筆だったのか？

喜瀬川が昔俺に書かせた手紙を
なぞっただけなんだ
今日お前さんがここに来てやっと書けた

親方はきちんとした縁切りの手紙を書けと言ってたんだけど

あの堅物にはそんなもの必要ないだろ
読んでいい？


バラ

宗太へ

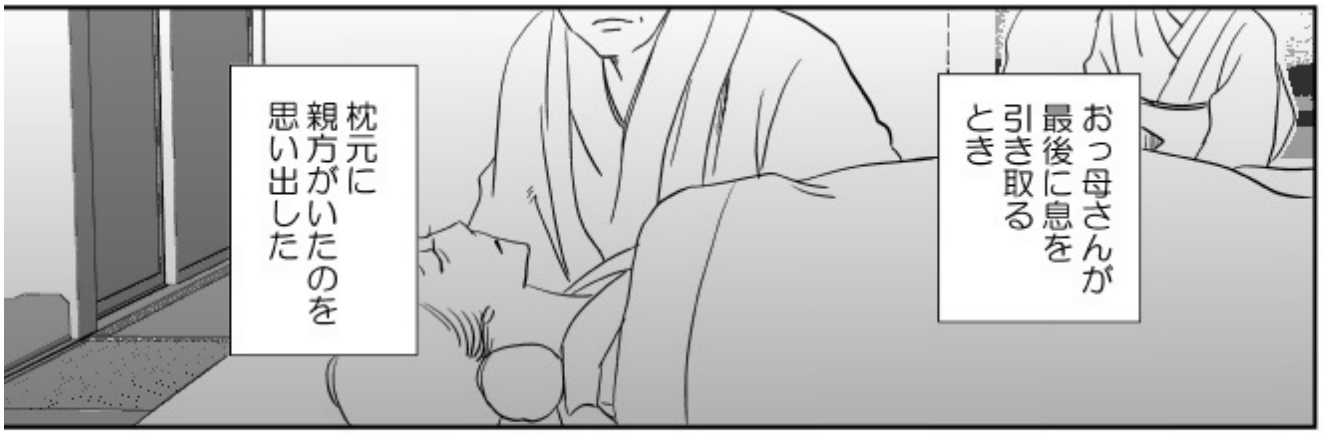
親方
三月の雛祭りに
二代目の喜瀬川を襲名させていただきます

そうか…
おっ母さんも雲の上から喜んでいるだろうね

お父っつぁん
長い間本当に

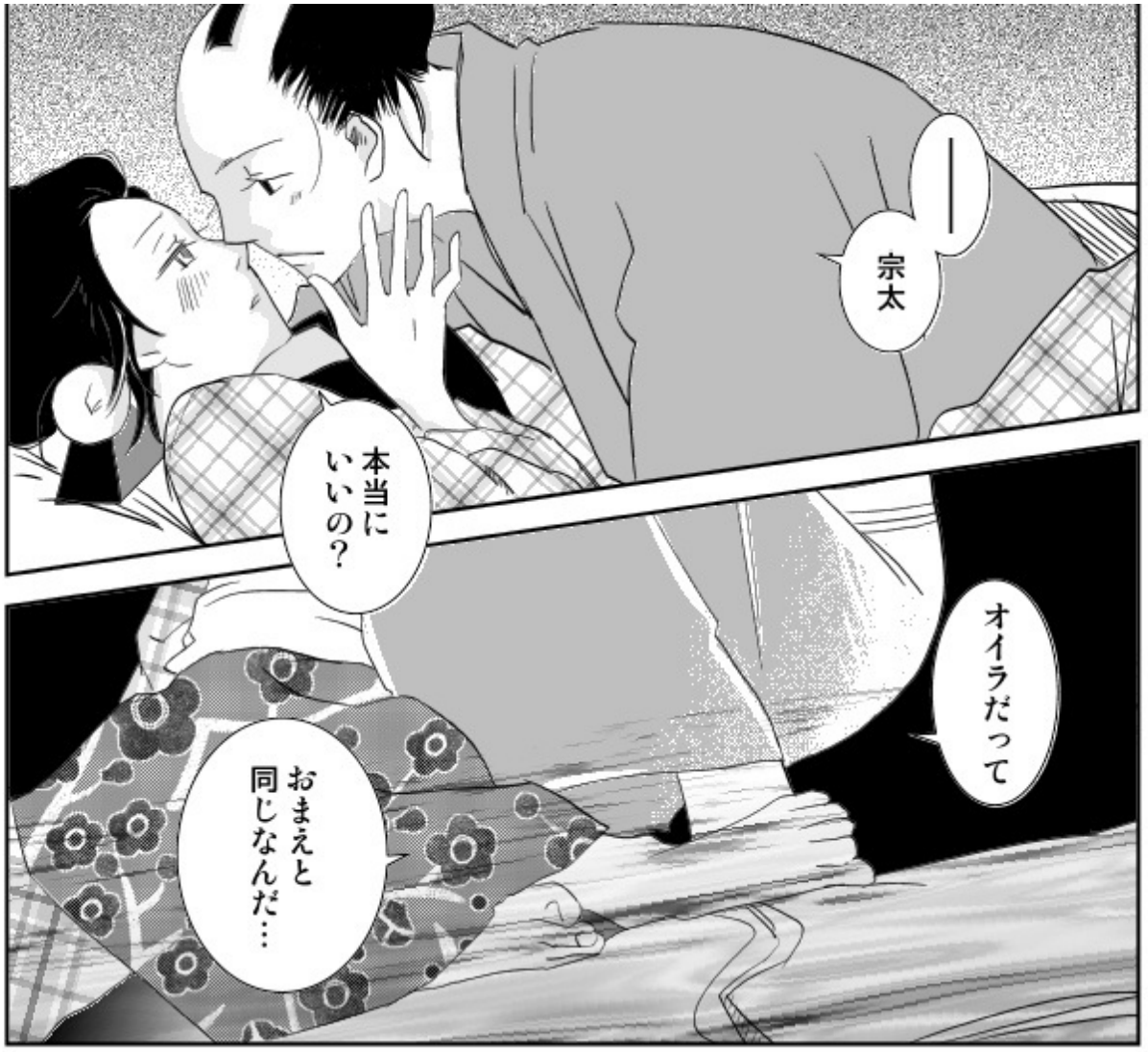
お世話になりました

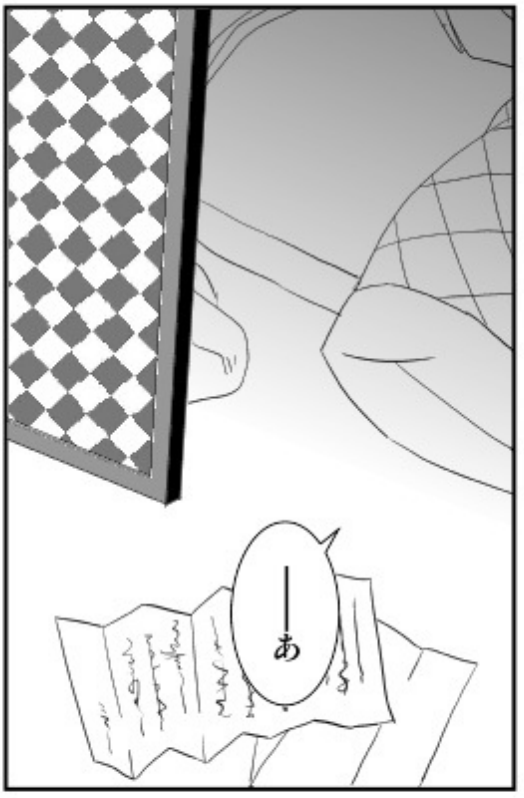
里長の野郎…
ばらしやがったか…


おっ母さんが最後に息を引き取るとき
枕元に親方がいたのを思い出した

あーあ
娑婆の空気もこれで最後になんのかな
中とそう変わらねぇや
もう一度海が見てぇな小さい頃行ったろ
嘘
もう困らせない

二人で
いれたらいい
いいよ
何も困っちゃ
いねぇ





私はもうすっかり覚悟を決めました

すべては　あなたのために
誰にもなびかず
ほだされず
でも情の深い
先代喜瀬川に恥じないような傾城になります
私は身請もされなければ
病気になることもない
年季を勤め上げてきちんとかたぎに戻るでしょう

だから それまで
しっかり私を
見守っていて

必ず
あなたの元へ
帰るから

帰る
から

だから
私を…

どうしたい
里長さん

あー
よけいなこと
書いたと
思ってさ

すんでのところで身を引いた
その口惜しさってやつ？
うるせぇこのマセガキ

死なない心中に
生娘の恋
嘘のような真か…

オイラも夢が見てぇな
コウ幸坊

ここじゃ何千って男達が夢を見ているぜ

終